



博多港・福岡空港の概況

令和6年3月
福岡市港湾空港局

= 目 次 =

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース） … P.1
（1）国際海上コンテナ取扱個数の推移
（2）令和5年の取扱個数増加の主な要因
（3）貨物の内訳
【参考：国内主要港との比較（令和4年）】
2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地 … P.4
3. 海上出入貨物（トンベース） … P.5
（1）海上出入貨物量の推移
（2）令和5年の貨物量増減の主な要因
（3）外国貿易
（4）内国貿易

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員 … P.9
（1）船舶乗降人員の推移
2. うち外国航路船舶乗降人員 … P.10
（1）外国航路船舶乗降人員の推移
【参考：国内上位5港の推移】
3. クルーズ船の寄港回数 … P.10
（1）クルーズ船の寄港回数の推移

第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数 … P.11
（1）入港隻数及び総トン数の推移

第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数 … P.14
（1）乗降客数の推移
【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】
2. 貨物取扱量 … P.15
（1）貨物取扱量の推移
【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】
3. 発着回数 … P.16
（1）発着回数の推移
【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】
4. 路線状況 … P.17

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース）

【令和5年港湾統計速報値】

取扱個数：約90万6千TEU

外貿ダイレクト：約83万2千TEU、内貿フィーダー：約7万4千TEU

(1) 国際海上コンテナ取扱個数の推移

令和5年の国際海上コンテナ取扱個数は、輸移出入ともに増加している。

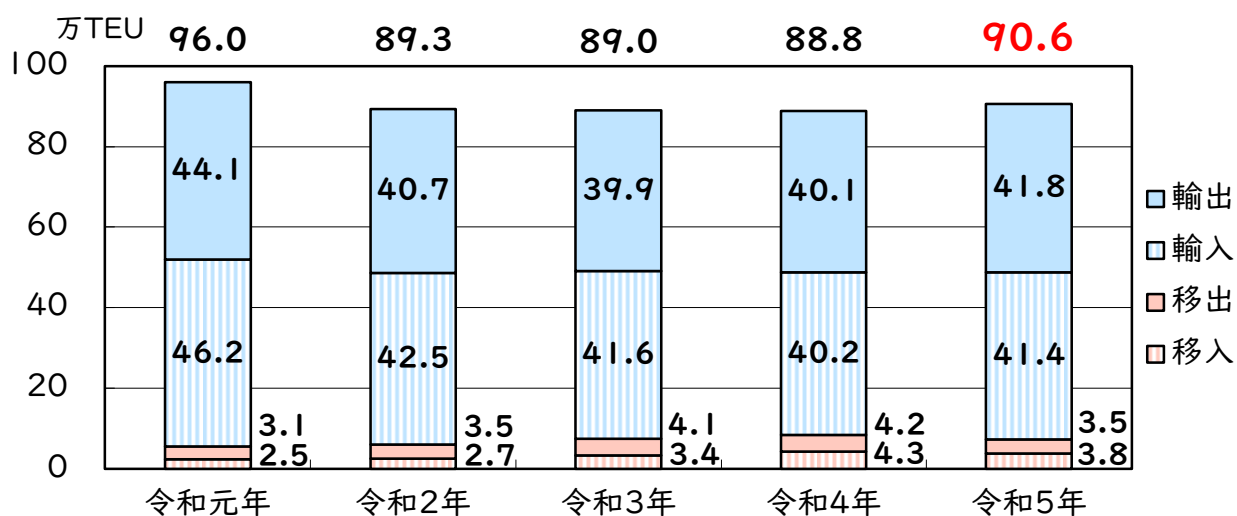
【表 1-1】

(単位:TEU)

区 分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	増減(R5/R4)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	960,085	893,301	890,026	887,734	905,678	17,944	102.0%
輸移出	472,708	441,499	439,944	442,862	453,563	10,701	102.4%
輸移入	487,377	451,802	450,082	444,872	452,115	7,243	101.6%
うち外貿ダイレクト	903,566	832,133	814,998	802,378	832,091	29,713	103.7%
輸出	441,367	406,913	398,554	400,796	418,187	17,391	104.3%
輸入	462,199	425,220	416,444	401,582	413,904	12,322	103.1%
うち内貿フィーダー	56,519	61,168	75,028	85,356	73,587	▲11,769	86.2%
移出	31,341	34,586	41,390	42,066	35,376	▲6,690	84.1%
移入	25,178	26,582	33,638	43,290	38,211	▲5,079	88.3%

※TEU…コンテナを数えるときの単位で、20フィートコンテナ換算個数

【グラフ 1-1】



(2) 令和5年の取扱個数増加の主な要因

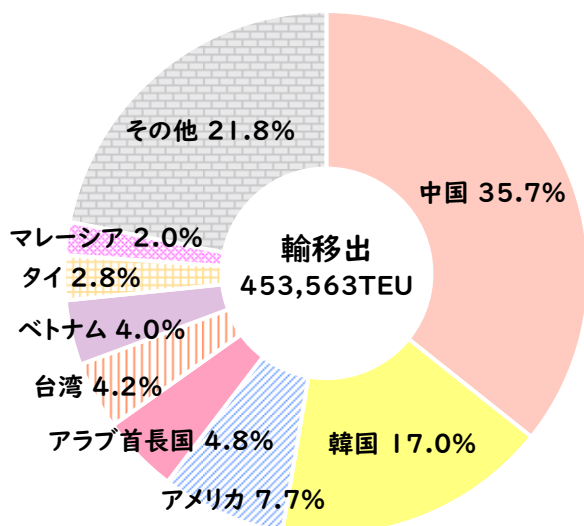
輸移出…完成自動車（前年比+2万7千TEU）や再利用資材（同+5千TEU）の増加等
 輸移入…自動車部品（同+5千TEU）や産業機械（同+2千TEU）の増加等

(3) 貨物の内訳

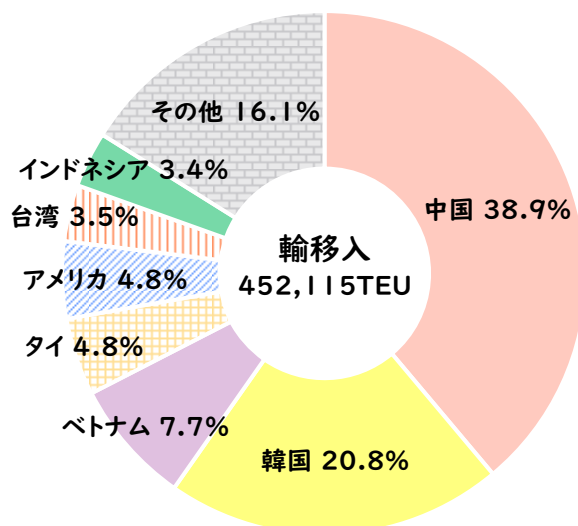
① 相手国別

輸移出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 1-2】



【グラフ 1-3】



② 主要取扱品種

輸移出では、主に北米や中近東向けを中心とする「ゴム製品（タイヤ等）」や「完成自動車（中古車）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸移入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣服・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 1-2】

(単位:TEU)

輸移出					
順位	品種	取扱個数	主な輸出相手国		
1	ゴム製品	45,662	アメリカ	アラブ首長国	韓国
2	完成自動車	※ 45,525	アラブ首長国	中国	南アフリカ
3	再利用資材	21,169	ベトナム	台湾	韓国
4	自動車部品	20,324	韓国	アラブ首長国	アメリカ
5	産業機械	18,071	中国	アメリカ	韓国
6	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	16,396	中国	韓国	台湾
7	取合せ品	11,856	ドイツ	オランダ	アメリカ
8	飲料	9,180	韓国	台湾	中国
9	二輪自動車	8,841	イタリア	フランス	ベルギー
10	化学薬品	7,623	中国	韓国	台湾

【表 1-3】

(単位:TEU)

輸移入					
順位	品種	取扱個数	主な輸入相手国		
1	家具装備品	45,406	中国	ベトナム	タイ
2	衣服・身廻品・はきもの	32,692	中国	ベトナム	台湾
3	動植物性製造飼肥料	29,686	アメリカ	韓国	オーストラリア
4	電気機械	27,518	中国	タイ	中国(ホンコン)
5	自動車部品	26,234	ベトナム	中国	韓国
6	製造食品	24,266	中国	タイ	韓国
7	金属製品	15,408	中国	韓国	ベトナム
8	その他日用品	15,080	中国	韓国	インドネシア
9	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	15,074	中国	韓国	台湾
10	水産品	14,449	韓国	中国	インドネシア

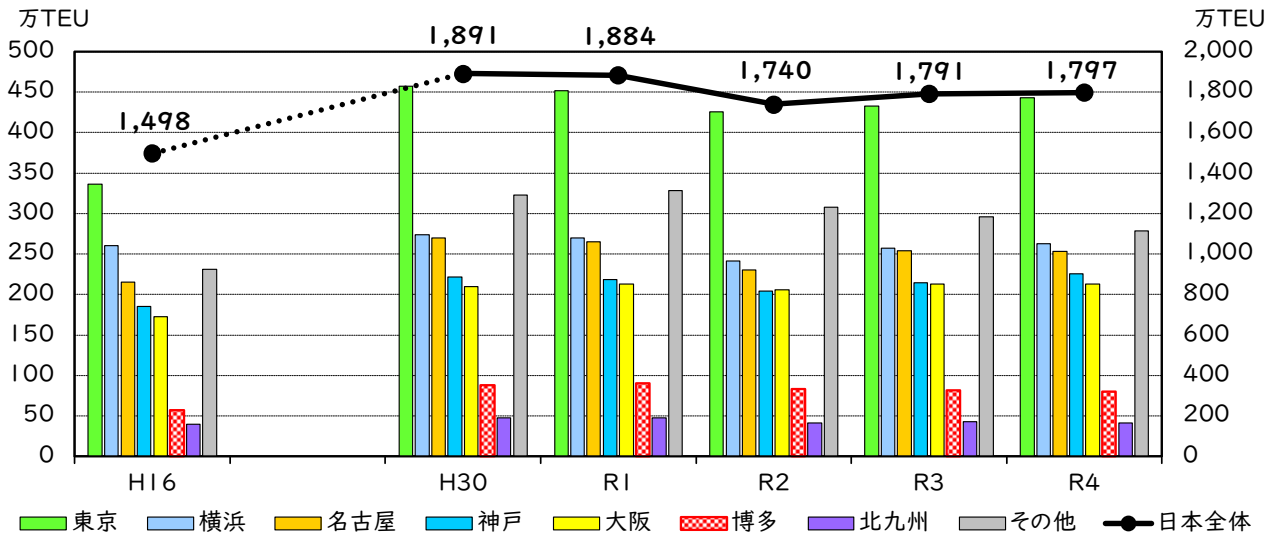
※ 普通・小型乗用車約 91,000 台分に相当

【参考：国内主要港との比較（令和4年）】 国土交通省「港湾統計（年報）」より

① 外貿コンテナ取扱個数の推移と博多港のシェア

国内で輸出入される外貿コンテナの5%弱を博多港で取り扱っている。

【グラフ 1-4】



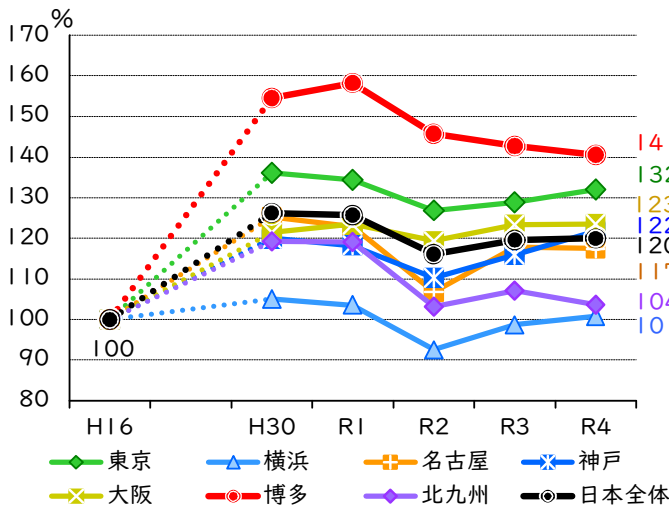
令和4年の港ごとの外貿コンテナ取扱個数は、多い順に、東京、横浜、名古屋、神戸、大阪、博多、北九州となっている。

年	H30	R1	R2	R3	R4
博多港のシェア	4.7%	4.8%	4.8%	4.6%	4.5%

② 国内主要港の外貿コンテナ増加率

博多港の取扱いは、日本全体や国内主要港よりも高い増加率で推移している。

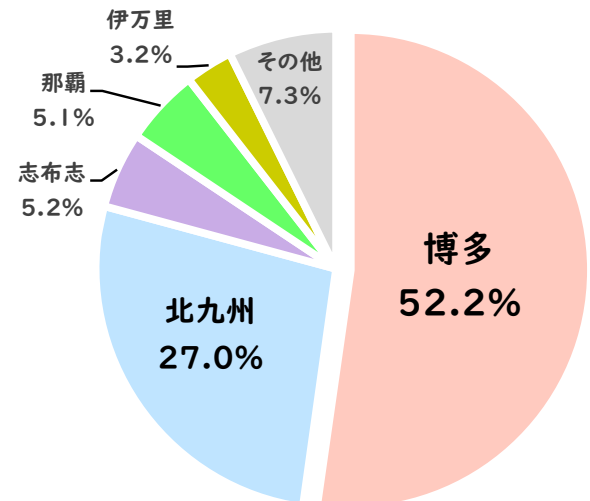
【グラフ 1-5】



③ 九州域内の取扱シェア

九州域内で取り扱われている外貿コンテナ貨物の約5割が、博多港を利用している。

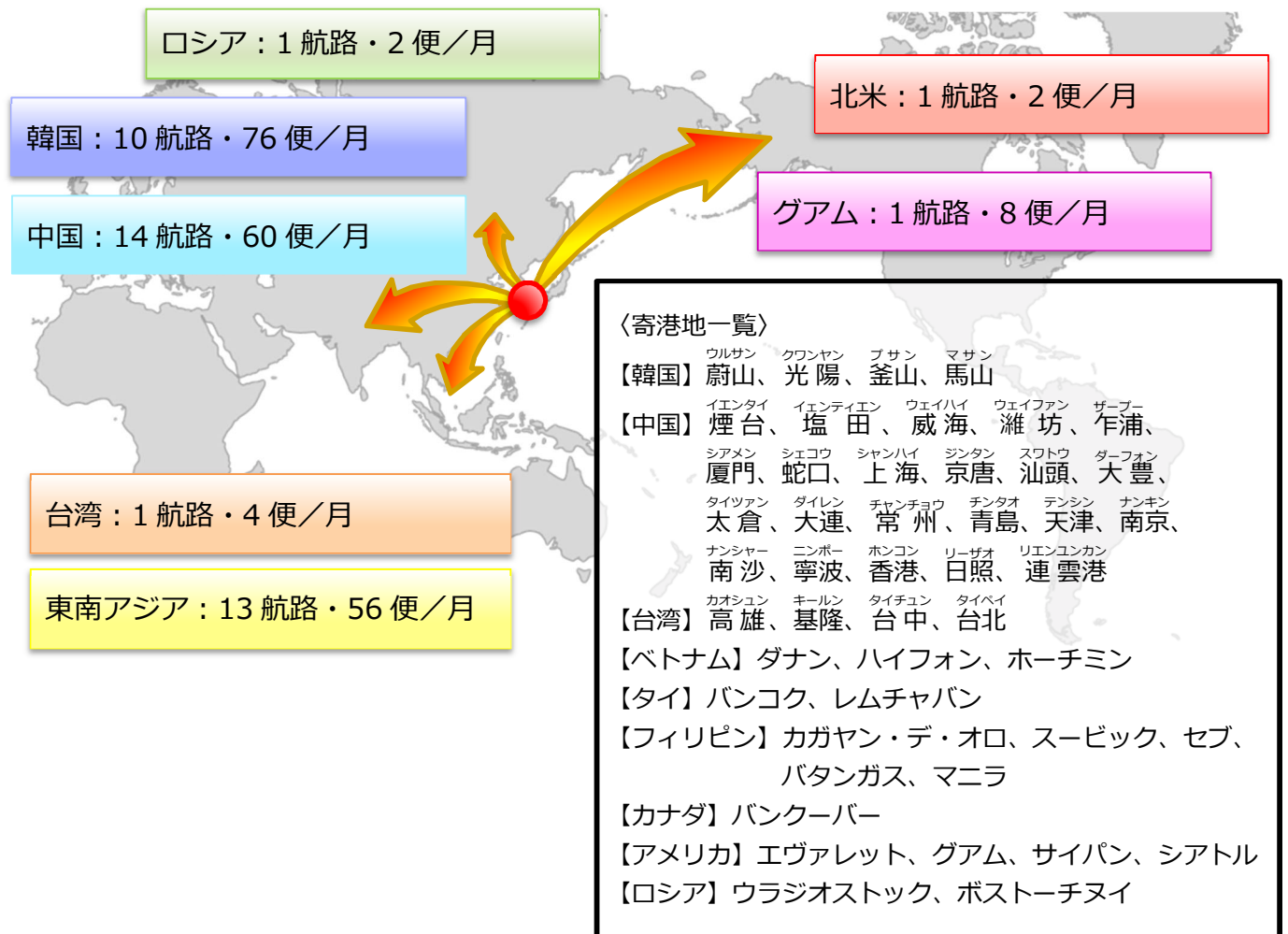
【グラフ 1-6】



2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地

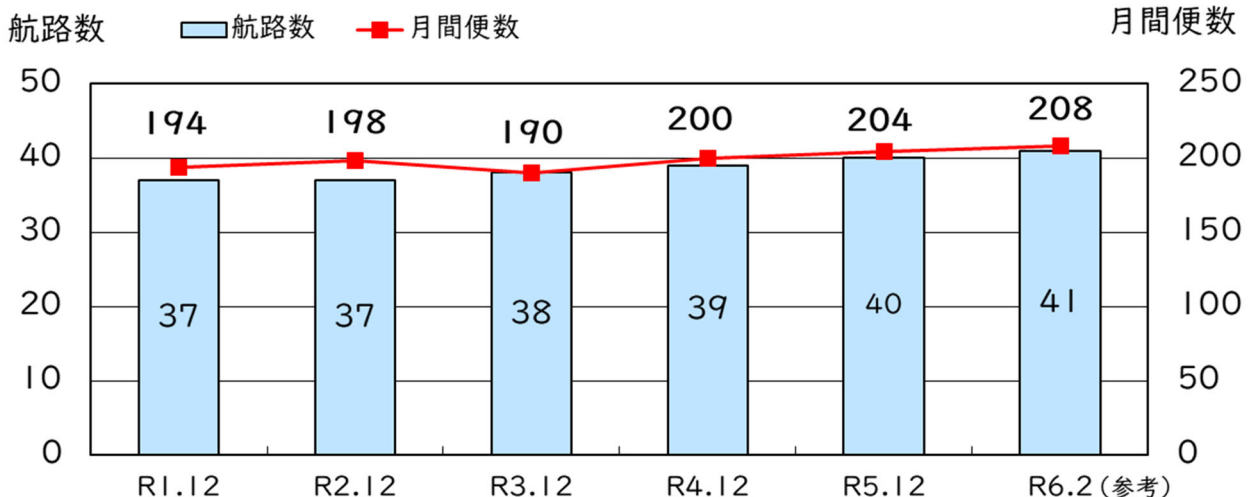
(令和6年2月1日現在)

41 航路・月間 208 便 (9 カ国・地域、47 港とのコンテナ物流網を形成)



■ 国際コンテナ定期航路の航路数・便数の推移

【グラフ 2】



3. 海上出入貨物（トンベース）

【令和5年港湾統計速報値】

貨物量：約 3,261 万トン

外国貿易：約 1,803 万トン、内国貿易：約 1,458 万トン

(1) 海上出入貨物量の推移

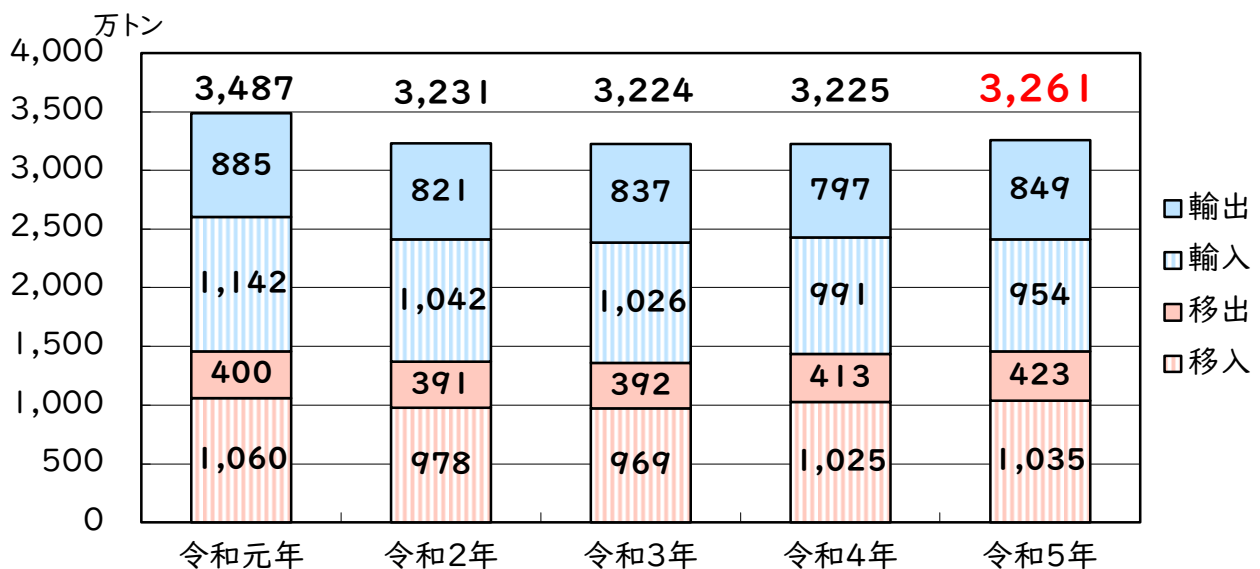
近年は 3,000 万トン台前半で推移しているが、令和5年の輸移出は前年より増加、輸移入は前年より減少しており、全体では令和4年より増加している。

【表 3-1】

(単位:トン)

区 分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	増減(R5/R4)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	34,869,325	32,313,714	32,242,372	32,253,371	32,606,794	353,423	101.1%
輸移出	12,852,443	12,119,745	12,291,901	12,096,797	12,716,264	619,467	105.1%
輸移入	22,016,882	20,193,969	19,950,471	20,156,574	19,890,530	▲ 266,044	98.7%
うち外国貿易	20,275,931	18,624,587	18,625,360	17,880,503	18,031,190	150,687	100.8%
輸出	8,854,988	8,205,787	8,368,395	7,970,800	8,489,366	518,566	106.5%
輸入	11,420,943	10,418,800	10,256,965	9,909,703	9,541,824	▲ 367,879	96.3%
うち内国貿易	14,593,394	13,689,127	13,617,012	14,372,868	14,575,604	202,736	101.4%
移出	3,997,455	3,913,958	3,923,506	4,125,997	4,226,898	100,901	102.4%
移入	10,595,939	9,775,169	9,693,506	10,246,871	10,348,706	101,835	101.0%

【グラフ 3-1】



(2) 令和5年の貨物量増減の主な要因

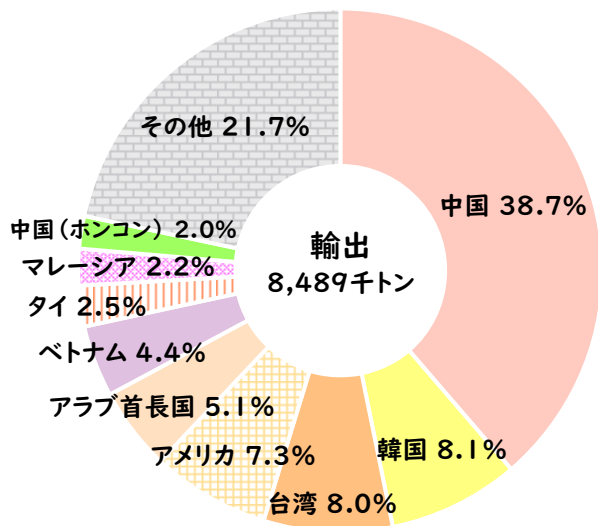
輸移出…完成自動車（前年比+61.0万トン）や飲料（同+13.3万トン）の増加等
 輸移入…家具装備品（同▲20.1万トン）や動植物性製造飼肥料（同▲15.7万トン）の減少等

(3) 外国貿易 【18,031千トン】

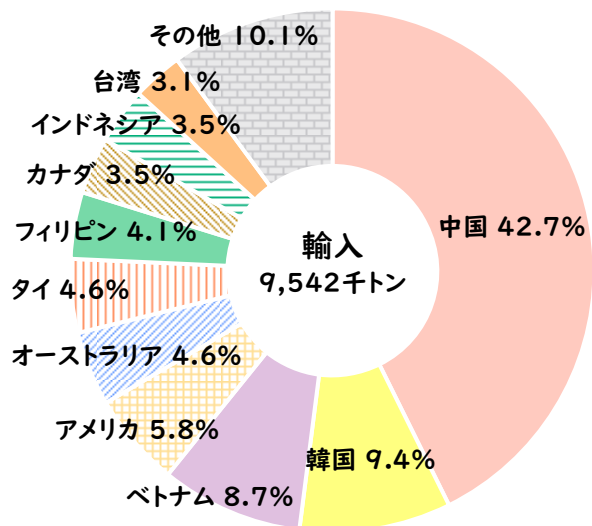
① 相手国別

輸出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 3-2】



【グラフ 3-3】



② 主要取扱品種

輸出では、中国をはじめとするアジアや北米、中近東向けを中心とする「完成自動車」や「ゴム製品（タイヤ等）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣類・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 3-2】

(単位:千トン)

輸 出					
順位	品種	取扱量	主な輸出相手国		
1	完成自動車	※ 4,301	中国	台湾	アラブ首長国
2	ゴム製品	944	アメリカ	アラブ首長国	メキシコ
3	産業機械	416	台湾	中国	ベトナム
4	再利用資材	390	ベトナム	台湾	韓国
5	自動車部品	321	アラブ首長国	マレーシア	韓国
6	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	292	中国	台湾	韓国
7	二輪自動車	210	イタリア	フランス	スペイン
8	飲料	192	韓国	台湾	中国
9	取合せ品	174	中国	オーストラリア	アメリカ
10	化学薬品	160	中国	韓国	台湾

【表 3-3】

(単位:千トン)

輸 入					
順位	品種	取扱量	主な輸入相手国		
1	家具装備品	1,239	中国	ベトナム	タイ
2	衣服・身廻品・はきもの	742	中国	ベトナム	台湾
3	電気機械	617	中国	タイ	中国(ホンコン)
4	麦	563	オーストラリア	カナダ	アメリカ
5	野菜・果物	528	フィリピン	中国	韓国
6	動植物性製造飼料	505	オーストラリア	韓国	アメリカ
7	自動車部品	496	ベトナム	中国	インドネシア
8	製造食品	460	中国	タイ	韓国
9	その他日用品	376	中国	インドネシア	韓国
10	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	294	中国	台湾	韓国

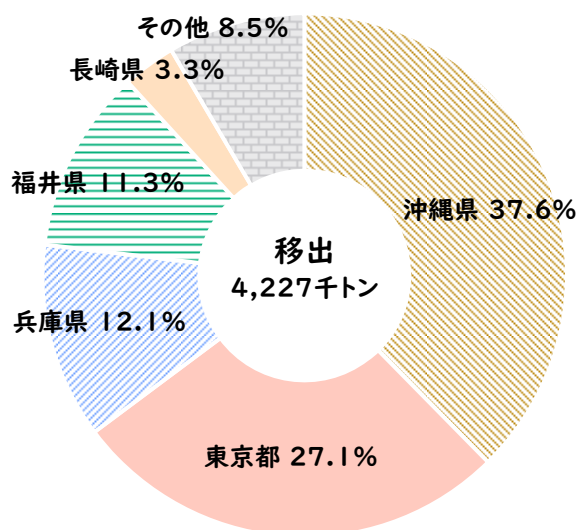
※ 普通・小型乗用車約 430,000 台分に相当

(4) 内国貿易 【14,576千トン】

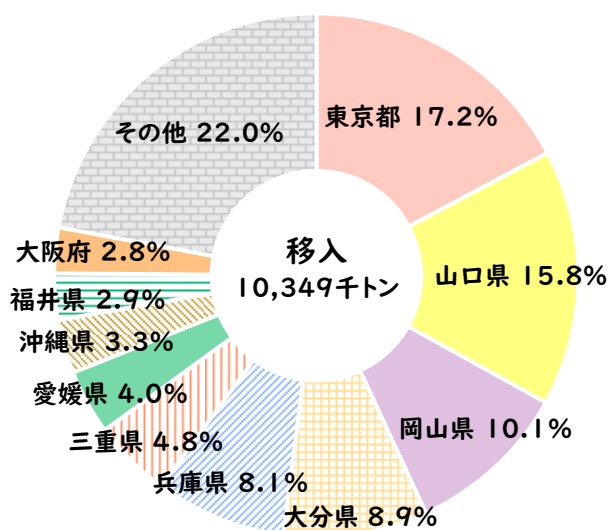
① 相手都道府県別

移出においては、定期航路を有する沖縄県や東京都との取引が多く、また、移入においては、東京都のほか、山口県、岡山県など石油製品を取扱う港との取引が多い状況となっている。

【グラフ 3-4】



【グラフ 3-5】



② 主要取扱品種

移出では、「取合せ品（小口混載貨物等）」や「完成自動車」など、取扱品種が多岐に渡っており、主に、定期航路を有する沖縄県や東京都に移出されている。

移入では、「その他の石油（軽油、航空燃料油など）」や「揮発油（ガソリンなど）」などの燃料系貨物、「砂利・砂」や「セメント」「鋼材」などの建築資材、「完成自動車」が上位を占めている。

【表 3-4】

(単位:千トン)

順位	移 出			
	品種	取扱量	主な移出相手都道府県	
1	取合せ品	827	沖縄県	東京都
2	完成自動車	※1 582	東京都	沖縄県
3	その他輸送機械	569	福井県	東京都
4	飲料	254	沖縄県	長崎県
5	製造食品	249	沖縄県	長崎県
6	その他日用品	188	沖縄県	長崎県
7	鋼材	166	沖縄県	福井県
8	ゴム製品	150	兵庫県	福井県
9	麦	142	香川県	沖縄県
10	とうもろこし	109	福岡県	鹿児島県

※1 普通・小型乗用車約 58,000 台分に相当

【表 3-5】

(単位:千トン)

順位	移 入			
	品種	取扱量	主な移入相手都道府県	
1	その他の石油	1,835	山口県	大分県
2	砂利・砂	1,637	海上採取	長崎県
3	揮発油	1,617	岡山県	山口県
4	完成自動車	※2 1,332	東京都	三重県
5	セメント	546	山口県	福岡県
6	鋼材	400	岡山県	大阪府
7	取合せ品	355	東京都	沖縄県
8	その他輸送機械	305	東京都	沖縄県
9	動植物性製造飼肥料	296	兵庫県	福井県
10	米	201	東京都	福井県

※2 普通・小型乗用車約 133,000 台分に相当

博多港のコンテナ物流について

<令和5年の国際海上コンテナ貨物動向>

◆国際海上コンテナ取扱個数

(単位：TEU)

区分	令和4年	令和5年	増減数	増減率
博多港全体	887,734	905,678	+17,944	+2.0%
実入り	639,014	649,184	+10,170	+1.6%
空	248,720	256,494	+7,774	+3.1%
輸移出	442,862	453,563	+10,701	+2.4%
実入り	230,992	257,727	+26,735	+11.6%
空	211,870	195,836	▲16,034	▲7.6%
輸移入	444,872	452,115	+7,243	+1.6%
実入り	408,022	391,457	▲16,565	▲4.1%
空	36,850	60,658	+23,808	+64.6%

◆輸移出における主な増加品目

(単位：TEU)

品目名	令和4年	令和5年	増減数	増減率
完成自動車	18,521	45,525	+27,004	+145.8%
再利用資材	16,275	21,169	+4,894	+30.1%
飲料	5,660	9,180	+3,520	+62.2%

◆輸移入における主な増加品目

(単位：TEU)

品目名	令和4年	令和5年	増減数	増減率
自動車部品	21,457	26,234	+4,777	+22.3%
産業機械	9,867	11,764	+1,897	+19.2%
水産品	12,698	14,449	+1,751	+13.8%

◆博多港の集荷対策について

博多港の強みを活かし、博多港における国際海上コンテナ取扱量のシェアが高い「東アジア」の貨物や、近年、増加が顕著な「東南アジア」の貨物を中心に集荷活動に取り組む。アジアの貨物については、九州内の港で輸出入されている貨物だけでなく、更なる集荷のため、九州からの流出貨物や、九州域外の貨物についても対象を広げ、積極的に集荷活動に取り組む。

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員

【令和5年港湾統計速報値】

乗降人員：約124万2千人

外国航路：約34万人、内国航路：約90万1千人

(1) 船舶乗降人員の推移

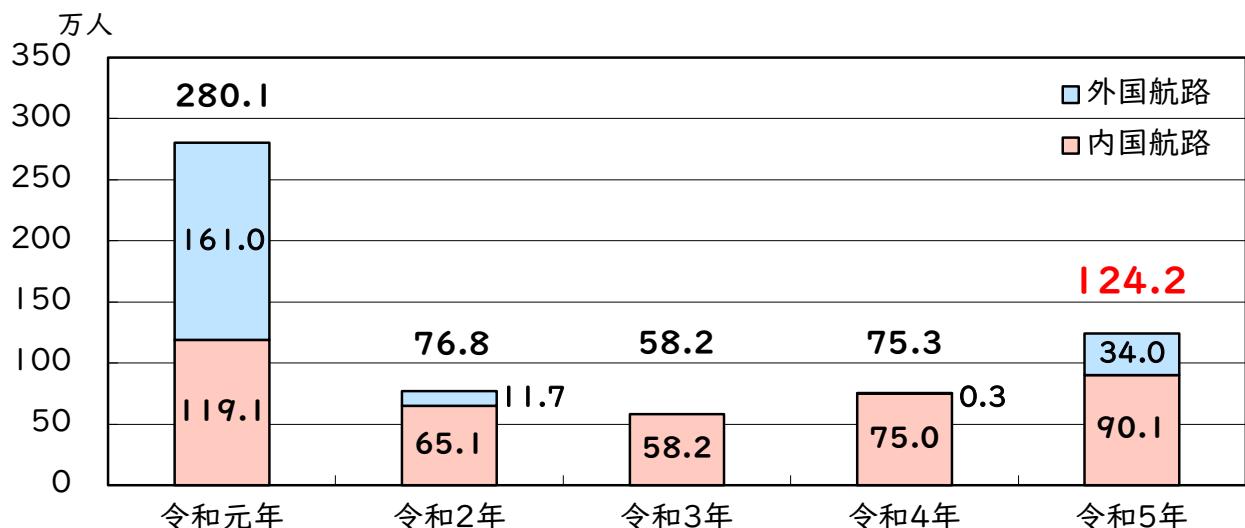
外国航路・内国航路とも、新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限等が緩和されたことにより、前年より増加している。

【表1】

(単位：人)

区分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	増減(R5/R4)	
					人数	人数	前年比
博多港全体	2,800,804	767,927	581,889	753,004	1,241,510	488,506	164.9%
うち外国航路	1,609,678	116,901	0	3,465	340,171	336,706	9817.3%
うち内国航路	1,191,126	651,026	581,889	749,539	901,339	151,800	120.3%

【グラフ1】



2. うち外国航路船舶乗降人員

【令和5年港湾統計速報値】

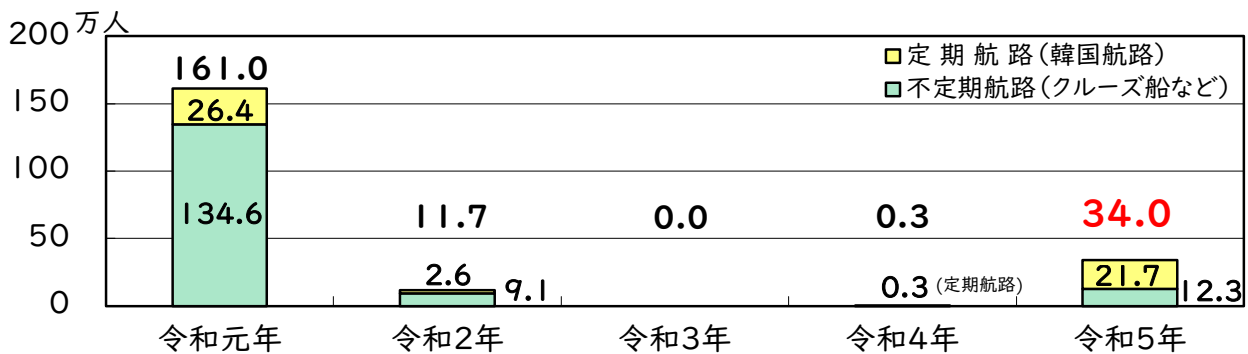
乗降人員：約34万人

(1) 外国航路船舶乗降人員の推移

定期航路については、令和4年11月の再開以降、順調に推移。

不定期航路（クルーズ船）については、令和5年3月の国際クルーズの運航再開により皆増。

【グラフ2】



3. クルーズ船の寄港回数

【令和5年港湾統計速報値】

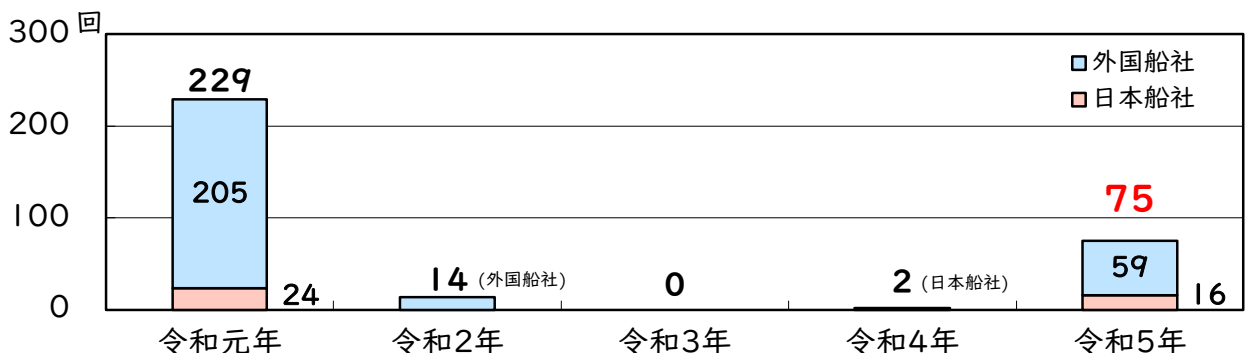
寄港回数：75回

外国船社：59回、日本船社：16回

(1) クルーズ船の寄港回数の推移

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、令和2年3月以降のクルーズ船の寄港がなかったが、令和4年11月から国内クルーズが寄港再開、令和5年3月から国際クルーズが寄港再開したことによる皆増。

【グラフ3】



第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数

【令和5年港湾統計速報値】

入港隻数：24,581隻

総トン数：約5,769万総トン

外国航路：3,200隻・約3,769万総トン、内国航路：21,381隻・約2,000万総トン

(1) 入港隻数及び総トン数の推移

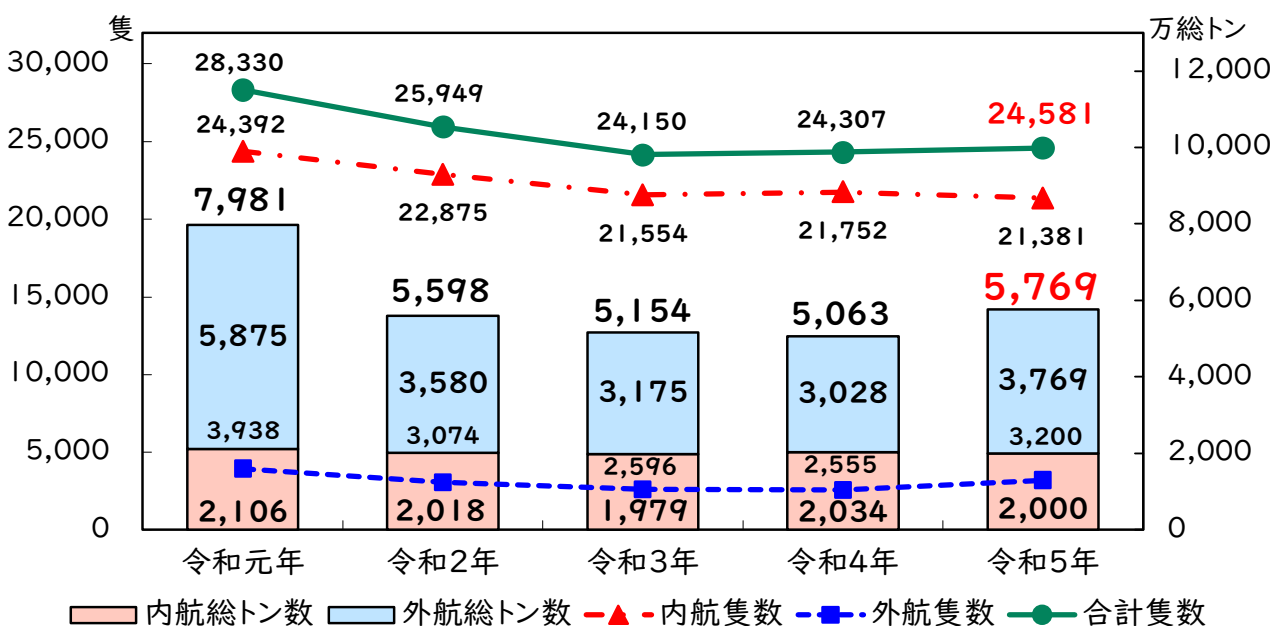
令和5年はフルコンテナ船や客船等の増加により、入港隻数、総トン数ともに増加している。

【表1】

(単位：隻、総トン)

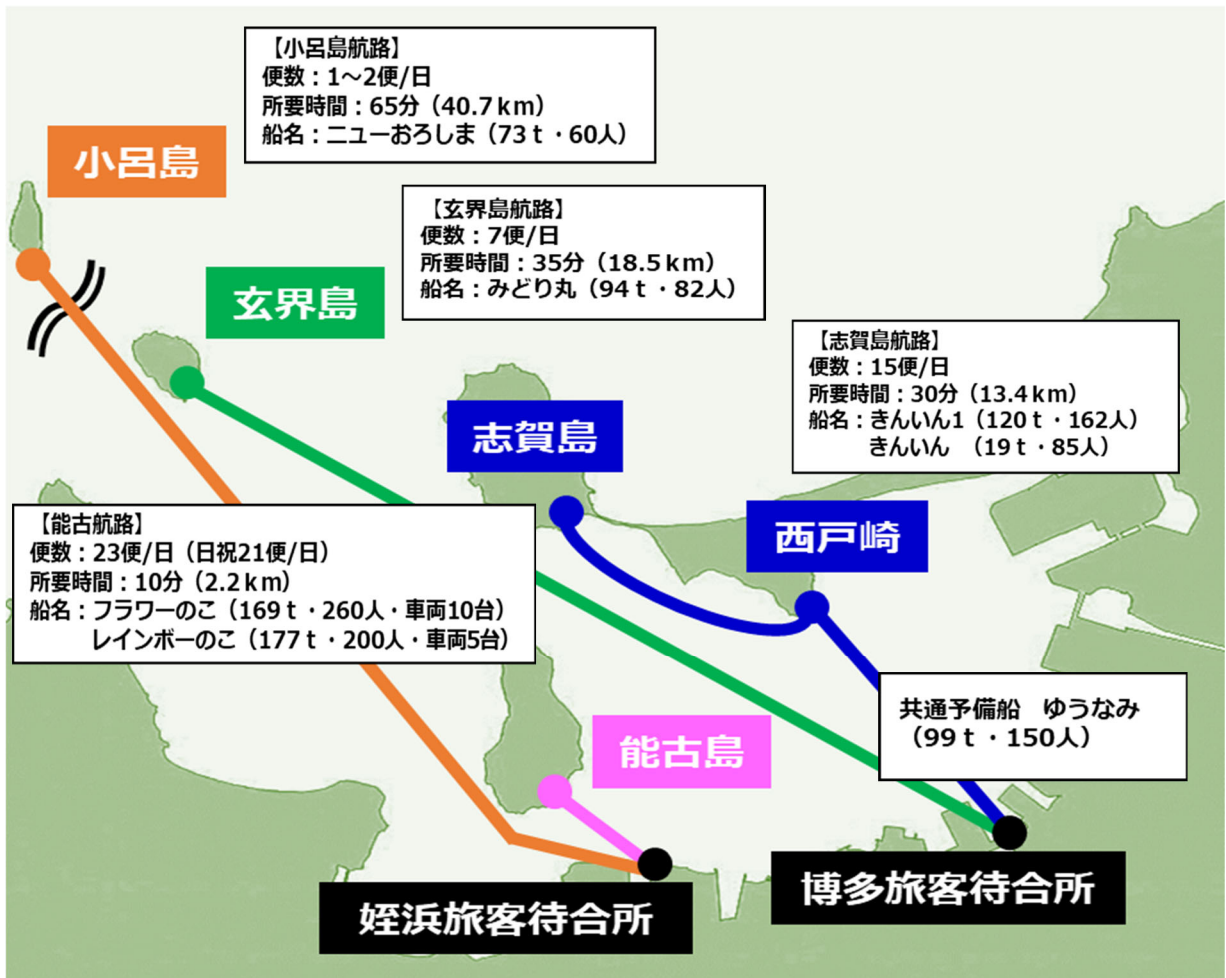
区分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	増減(R5/R4)	
					数量	数量	前年比
入港隻数	28,330	25,949	24,150	24,307	24,581	274	101.1%
うち外国航路	3,938	3,074	2,596	2,555	3,200	645	125.2%
うち内国航路	24,392	22,875	21,554	21,752	21,381	▲371	98.3%
総トン数	79,805,066	55,983,314	51,540,787	50,627,385	57,690,696	7,063,311	114.0%
うち外国航路	58,748,120	35,802,548	31,750,203	30,284,868	37,687,726	7,402,858	124.4%
うち内国航路	21,056,946	20,180,766	19,790,584	20,342,517	20,002,970	▲339,547	98.3%

【グラフ1】



市営渡船の経営状況

1. 航路概要図



船舶一覧



志賀島航路「きんいん1」



志賀島航路「きんいん」



共通予備船「ゆうなみ」



玄界島航路
「みどり丸」



能古航路
「フラワーのこ」



能古航路
「レインボーのこ」



小呂島航路
「ニューおろしま」

2. 航路別収支

(単位：千円)

区分		令和6年度 当初予算 (案)				
		志賀島	能古	玄界島	小呂島	合計
歳入	運賃収入等	81,176	272,025	55,394	24,040	432,635
	国・県補助金	0	0	124,716	75,131	199,847
	計	81,176	272,025	180,110	99,171	632,482
歳出	運航経費	502,324	455,924	279,919	178,079	1,416,246
運航収支		▲ 421,148	▲ 183,899	▲ 99,809	▲ 78,908	▲ 783,764
歳入	市債収入	8,000	0	0	0	8,000
歳出	市債関連支出	8,878	0	0	0	8,878
	公債費 (市債償還分) 等	31,685	44,694	49,246	2,636	128,261
	計	40,563	44,694	49,246	2,636	137,139
繰入金		453,711	228,593	149,055	81,544	912,903

3. 取り組み状況

航路	取り組み状況
志賀島航路	■ 志賀島においては、Fukuoka East Coast プロジェクトが進行中であり、 地域や総務企画局等の関係局区と連携し、観光利用の促進 に取り組む。
能古航路	■ 地元レジャー施設との連携 などに取り組む。
玄界島航路 小呂島航路	■ 地域の意向を踏まえ、各島の地域おこし協力隊と連携した 情報発信等 に取り組む。

第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数

【令和4年度確定値】

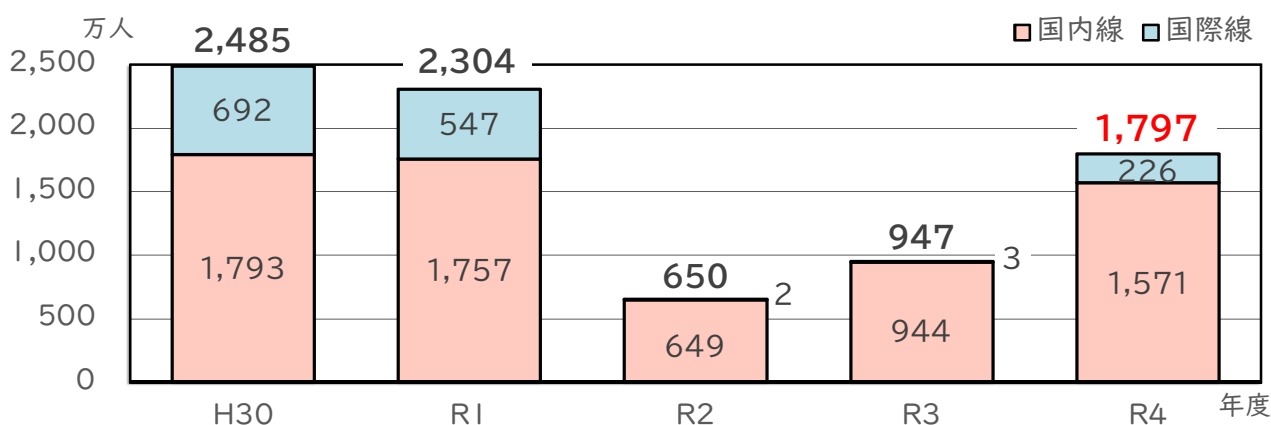
乗降客数：約 1,797 万人

国際線：約 226 万人 国内線：約 1,571 万人

(1) 乗降客数の推移 国土交通省「空港管理状況調査」より

新型コロナウイルス感染症対策の移動制限の撤廃等により、国内線が先行して回復してきている。

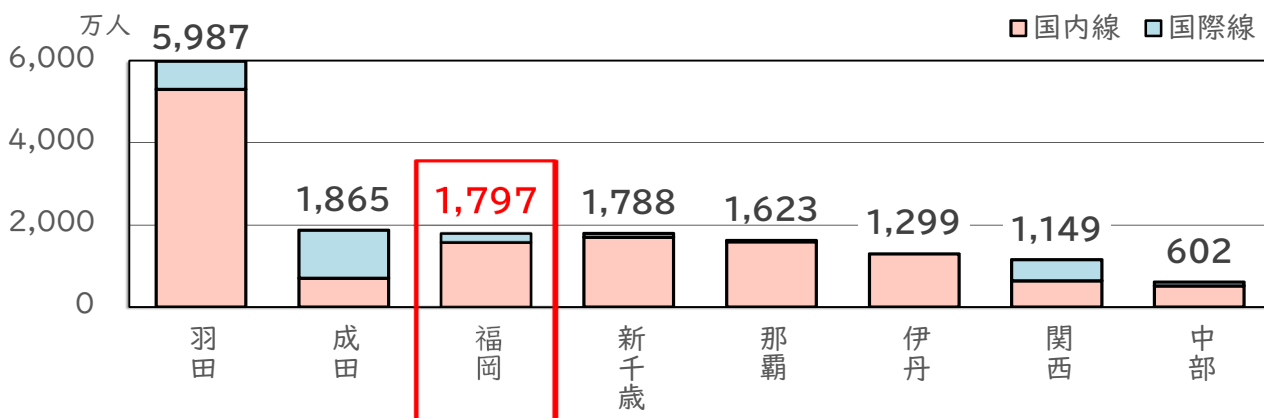
【グラフ 1-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】 国土交通省「空港管理状況調査」より

福岡空港の乗降客数は国内第3位である。

【グラフ 1-2】



参考：乗降客数の推移（1月～12月）

暦年	R1	R2	R3	R4	R5（速報値）
乗降客数	約 2,468 万人	約 958 万人	約 848 万人	約 1,482 万人	約 2,408 万人
（うち国際線）	（約 640 万人）	（約 88 万人）	（約 2 万人）	（約 93 万人）	（約 640 万人）

2. 貨物取扱量

【令和4年度確定値】

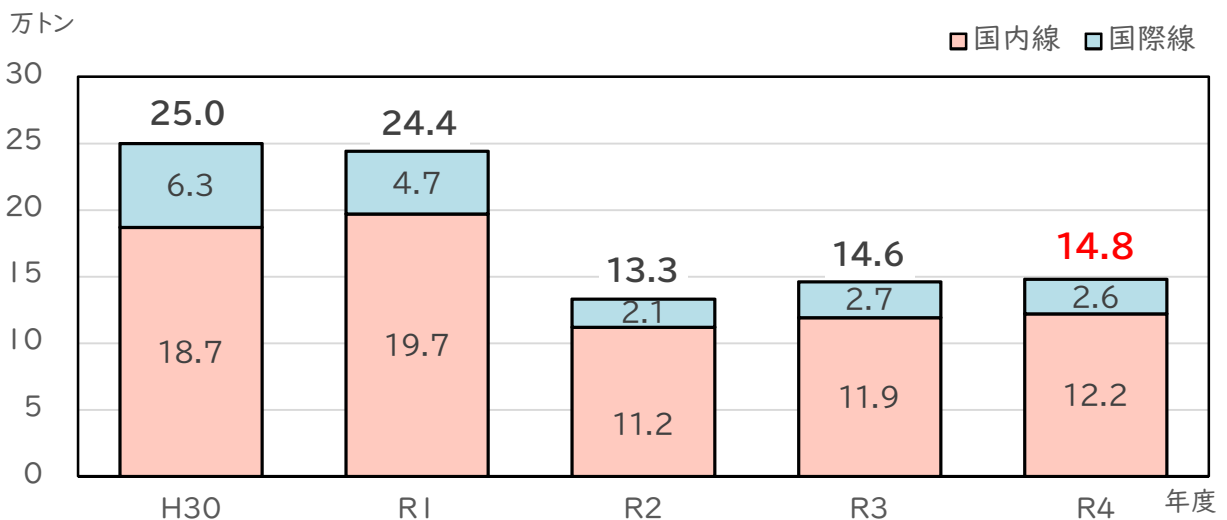
貨物取扱量：約 14 万 8 千トン

国際線：約 2 万 6 千トン　国内線：約 12 万 2 千トン

(1) 貨物取扱量の推移 国土交通省「空港管理状況調書」より

国際線・国内線ともに前年度と同程度となっている。

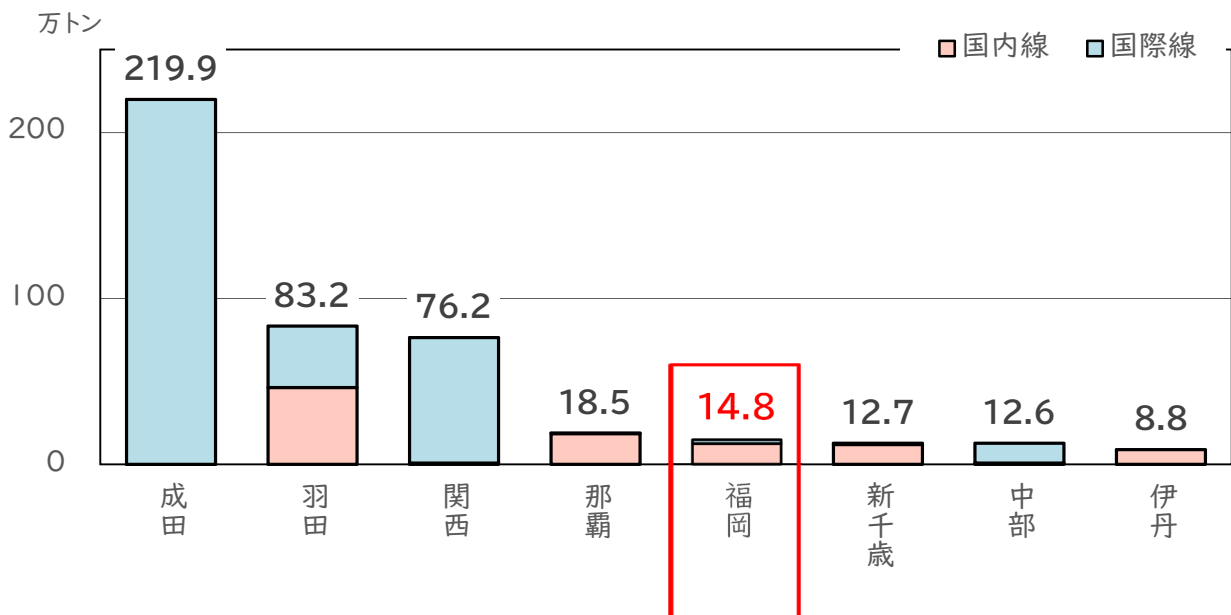
【グラフ 2-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】 国土交通省「空港管理状況調書」より

福岡空港の貨物取扱量は国内第5位である。

【グラフ 2-2】



3. 発着回数

【令和4年度確定値】

発着回数：約 15万9千回

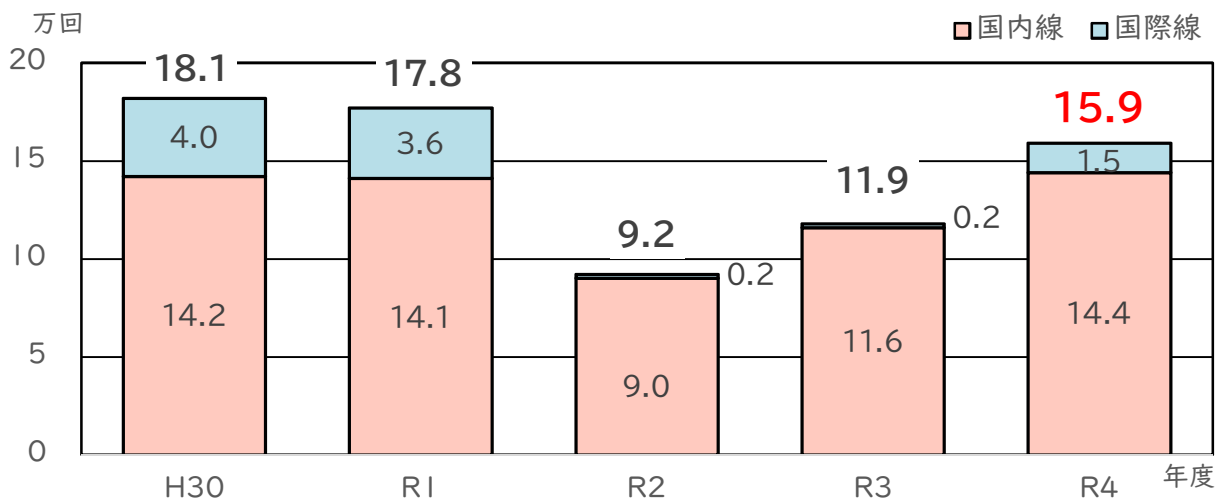
国際線：約 1万5千回

国内線：約 14万4千回

(1) 発着回数の推移 国土交通省「空港管理状況調査」より

新型コロナウイルス感染症対策の移動制限の撤廃等により、国内線が先行して回復している。

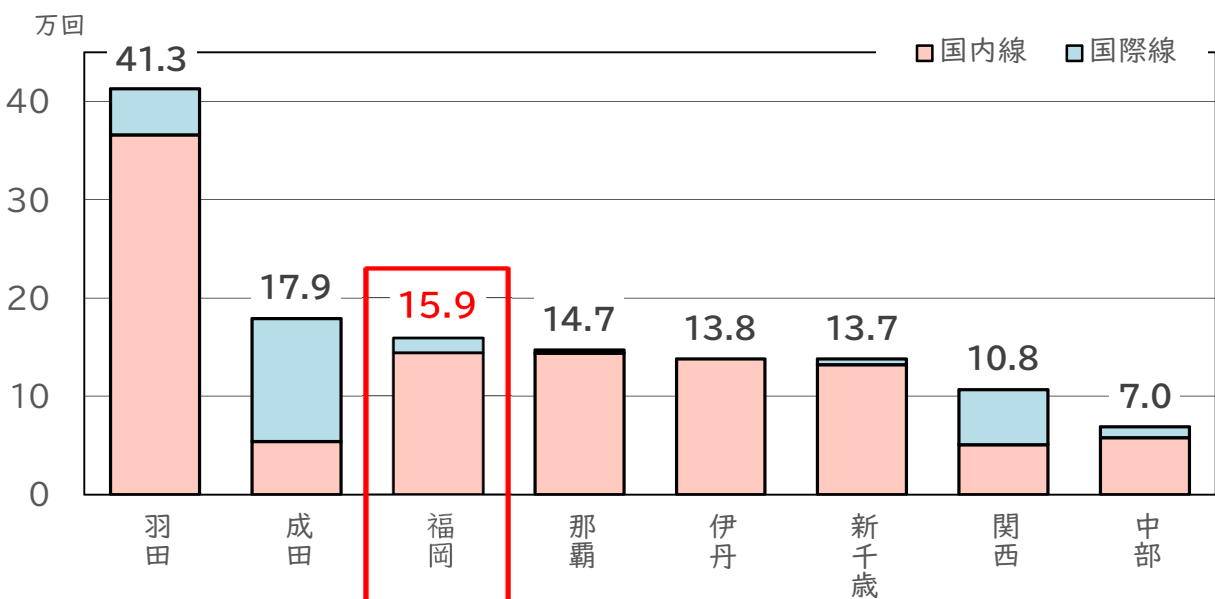
【グラフ 3-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和4年度）】 国土交通省「空港管理状況調査」より

福岡空港の発着回数は国内第3位である。

【グラフ 3-2】



4. 路線状況

令和6年2月現在で、路線数は国際線が22路線、国内線が27路線となっている。
また、発着便数は国際線が週844便、国内線が1日374便となっている。

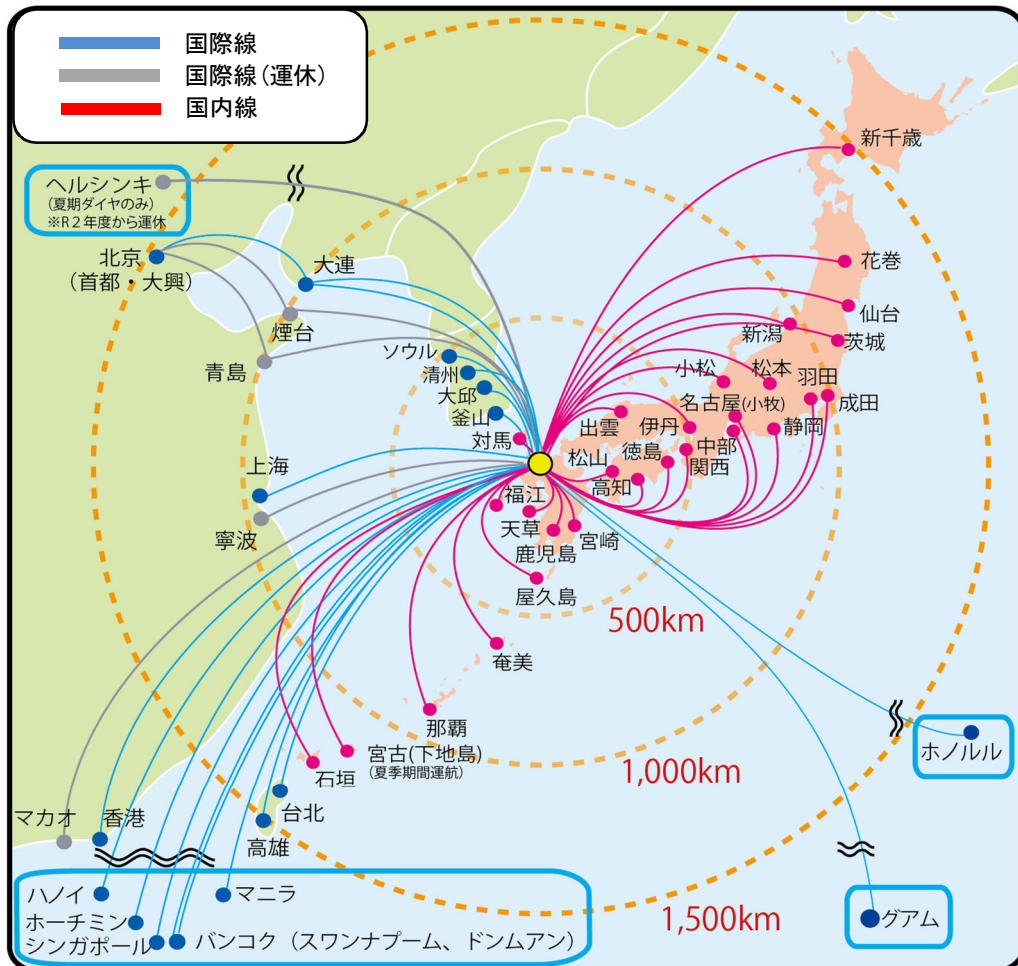
福岡空港の時刻表(2月)を基に福岡市港湾空港局集計

区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行先
国際線	22 ※運休含む	844 (便/週)	29	ソウル、釜山、大邱、清州、上海、北京、大連、 青島、 <u>煙台</u> 、 <u>寧波</u> 、台北、高雄、香港、 マカオ、マニラ、バンコク、ハノイ、ホーチミン、 シンガポール、グアム、ホノルル ※下線部は時刻表上「運休」 計21都市(8カ国・地域)
国内線	27	374 (便/日)	13	羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、 小松、松本、茨城、静岡、中部、名古屋(小牧)、 関西、伊丹、出雲、松山、徳島、高知、 対馬、福江、天草、宮崎、鹿児島、屋久島、 奄美、那覇、石垣 計27空港

※2月現在、ダイヤ設定のないヘルシンキ及び宮古(下地島)は含まない。

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く。

福岡空港路線図



福岡空港の機能強化



航空機混雑を解消するとともに、将来の航空需要に適切に対応するため、滑走路増設事業を実施(令和6年度末供用開始予定)

福岡市・福岡国際空港(株)協議会の開催実績（令和5年10月以降）

福岡市は、運営会社との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場(福岡市・福岡国際空港(株)協議会)を設置

開催日・出席者	主な協議内容
<p>令和5年12月4日（協議会）</p> <p>【福岡市】 市長、副市長、 港湾空港局長、理事 他</p> <p>【運営会社】 社長、副社長、 経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会社から、旅客数・便数については、コロナ前とほぼ同水準まで回復した、保安検査場や駐車場については、各種対策の実施により、現在、大きな混雑は発生していないとの報告があった。 ・滑走路増設やターミナル整備による空港の機能強化を契機に、アジアの未就航都市などの路線誘致に連携して取り組むことを確認。 ・運営会社から、ターミナルや内陸連絡バス専用道など施設整備の進捗状況について説明があり、市から、開発に伴う交通対策の実施を求めた。また、高付加価値旅行者等の受け入れ環境整備に向け、国への働きかけ等、連携して取り組むことを確認。 ・運営会社から、空港での脱炭素化推進については、国が策定する計画に沿って取り組みを進め、市のチャレンジ目標である2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロに貢献できるよう努力するとの発言があった。 ・市から、次期中期事業計画策定にあたって、安全・安心で地域に寄り添った空港運営や多様な航空ネットワークの強化を要請し、運営会社から、これまでに出た意見を今後の計画や空港運営に反映させていく旨の発言があった。